



埼玉岳連報 第11号

発行所 埼玉県山岳連盟  
上尾市上1481-51  
電話 (048) 775-1723  
発行者 浅見 豊  
編集者 大久保 孟

ご挨拶

埼玉県山岳連盟

会長 浅見 豊

第52回国民体育大会関東ブロック大会山岳競技会が、東京都山岳連盟主管のもとに奥多摩山系で開催されました。折りしも台風9号の迷走で天候不順の中、選手役員はもとより主管団体は一層の困惑だっ

たと思います。競技会終了の七月二十七日夜、大野副会長より電話がはいり、少年男子が、関東ブロック代表権を獲得。との知らせがありました。一瞬耳を疑いよく頑張ったと思わざるを得ませんでした。それと言うのも前日の踏査競技では雨の降りしきるなか期待されていたとはいえ、大変なスタートとなりました。そして三十分位すると埼玉の選手一名、キイロスズメバチに刺され昏倒、しかも次々と通過する選手も刺されたが特に埼玉の選手は重傷との連絡が入りました。残念ながら競技続行は断念としか思えません。しかし選手は見事な頑張りで完走してくれました。ただちに救急車にて入院しことなき

を得ました。翌日は選手も回復し縦走競技で二位入賞と言う快挙をなし、総合得点で代表権を獲得することが出来ました。この様な天候不順の中、そして思わぬアクシデントを乗り越え選手はよく頑張ってくれました。又選手をしつかり支えた監督、役員そして自分の会員を雨の中幕営させてサポートしていたことなど、この様な近代山岳競技会に、昔から山を愛する者の心に育まれてきた登山への理念がしつかりと生きていたことに感激致しました。

さて我が国では一つの時代の区切りとして戦後という言葉葉がつかわれております。たしかに登山界でも昭和二十年代からの五十年、長い歴史の上からみてもこれは区切りであり、スタートでもあると思えます。現在私たちの登山界でもかつてない程たくさんの分野が目前に広がっております。例えば昔の登山には考えられなかった風景論などは無視したタイムレース、人口壁を使つてのフリークライミング、カリキュラムの上のつた指導、遭難対策、登山の原点ともいえる自然保護、海外登山、中年登山普及など、まさに登山というスポーツの巾の広がりを見張るばかりです。私達の県岳連は加盟団体は80を数え会員数は三千人を越えております。他県から見ると非常にたくさん加盟団体が有るようには見えません。しかし昨年秩父山系で一年間の遭難者数二十三件、死者三名そのうち未組織パーティー二十一件と記録されております。この人達は全て埼玉県内というわけではありませんが、今山を歩いている人の大多数が未組織の方々であるとおもわれます。この様なことを考え

てくると加盟団体はそれなりの行動をしているでしょう。しかし一層ハイグレードの方向へ向上させる事業を企画させる必要があります。しかし各事業部ともそれを実行するには金がかかると思えます。選手強化にしても指導者育成にしても、中年登山者指導にしても自然保護又は遭難対策にしても、これはどうしても県岳連として手を付けねばならない問題です。そこで考えられる事は一般登山者を含めての登山競走大会、安全登山講習会など、まだまだ事業になる企画もあると思えます。各事業部の皆さんで企画をしばり込んでいってそれなりの成果が期待出来るのではないのでしょうか。そして登山がより一層埼玉のスポーツとして拡大し、安全に健康に、自然をいつくしむ心を育てるために、いろいろな機会に加盟団体の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

原稿募集!

記録・紀行・写真・カット・地区岳連の動向等なんでも結構です。広報部宛お寄せ下さい。

送付先 〒363 桶川市上日出谷1143-1  
埼玉岳連広報部 大久保 孟 宛  
TEL & FAX 048-787-1578

# 埼玉県山岳連盟の これからのために

## 埼玉県山岳連盟

副会長 田中文男  
兼理事長

本日は、この原稿は違う形で書き始めたのです。でも、久しぶりに嬉しい気持ちになって、全ての原稿を書き直したくなりました。

他県の方から見れば、なんだ、とおっしゃられることも知れませんが、国民体育大会関東ブロック大会で少年男子が本大会（大阪）への出場切符を手にしてくれたのです。

県岳連をお預りして、もう久しくなりますが関東大会は連戦連敗でした。県岳連の多くの方々の努力にもかかわらず、その道は遙か彼方だったのです。

松山高校の大野好司先生を強化責任者に、進学校の松山高校を強化指定校として四年今回、ようやく花を咲かせることができました。  
大勢の山岳部員の協力、さらに他の競技部からの応援、

それをまとめきってくれた大野先生に心からお礼を申し上げます。と同時に、様々な形で支援して下さった副理事長の森下先生に感謝したいと思います。さらに、やっぱり一番がんばってくれた選手の皆さんに、どうもありがとう。本番もがんばってと、感謝と欲張りなお願いをしたいと思います。

しかし、考えてみますと、国体が県岳連の全てではありません。加盟九十団体の皆さんのために、様々な形で指導とサービスを行なわなければ県岳連の存在価値がないからです。

指導員制度も大きく変わりました。日本協の公認制度になり、内容も従来とは比較にならない位変わりました。埼玉岳連の将来を考えれば、さら

ていただき、運営に協力していただかなければなりません。遭難対策もそうです。

山で事故を起こすために登山する人はいません。それでも事故は起こる。

どうしたら事故は防げるのか、そのために技術の向上をどう図るのか、これらについて県岳連の最重要な課題として取り組もうと思っております。

一方、登山者が山へ行けば、好むと好まざるにかかわらず山が痛みます。山を傷つけないでどう山へ登るか、それを登山者にどう理解させるか、

「自然保護委員会」もまた重要な役目を負っております。そして、来年は私共の県岳連は「マカールI峰」に登山隊を出します。久しぶりに県岳連の八千米へのトライです。

当然のことながら、人と時間とお金がかかります。でも、どうしたら海外の山に登れるか、海外委員会は指針を出してくれま

す。これからの若い登山家の方向づけに役立つことと思

います。もう一度最初に戻ります。競技登山。はじめないかも知れ

ません。しかし、現にそ

ういうジャンルがあります。フリークライミング。

新たなチャレンジャーの育成が必要で

す。指導者の育成が大切です。少年がそこから八千米の山々へ眼を向けてく

れたらどんなにか嬉しいことでしょう。

そして、忘れてはならないことは、中

高年の方々の強烈な登山志向です。テレビまでそういう方々にサービ

スする今日、県岳連もこの人達に手をどう差し伸

べずか、非常に重要な問題です。県岳連加盟団体の中には、こ

ういう方々を組織に取り入れ、新しい登山形態を生み出

して、新しい登山形態を生み出している会が数多く見受けられるよ

うになりました。私達は、さらに質の良い指導者を養成する必要に迫られると思

います。中高年ばかりではない、次の世代を若い登山家

にどう背負うのか、これはさらに重要な問題です。山の素

晴らしさ、良さをどう理解して貰えるか、私達は一人一人考

える必要があるでしょう。そして、そこで育った方々

が、あと七年後に行なわれる埼玉国体の山岳競技を任

せてくれると思

います。そのためには、私達は力を合わせて県岳連の未

来のため働く必要があると思

います。県岳連の皆さん方の支

えによって、上部団体、日本山岳協会の副会長兼専務理事を

私はやらさせていただきます。ありがとうございます。



加盟団体のそれぞれの方々の声を県岳連に反映したいと思

いますし、さらにそれを、日本山岳協会に反映させたいと思

っております。どうか、これからも力を貸

して下さい。県岳連に入っていて良かつ

たと思

って下さるよう、私は努力したいと思

いますので。

### 第52回国体関東ブロック大会

## 念願の予選突破！ 本大会でも入賞を目指す

### 競技部強化委員会

委員長 大野好司

ついに少年男子の松山高校が、関東ブロック大会を突破しました。これは、昭和58年の群馬国体の成年女子以来、十四年振り、少年男子としては、初めての事です。

松山高校としては、四度目の正直でした。全く要領もわからず初出場した平成6年度（千葉）での屈辱の七位。挽回を期して望んだものの、ミスや故障に泣いた平成7年度（茨城）の六位。ノウハウの蓄積を基に、踏査競技への自信は深めたものの、絶対的な走力の不足を痛感させられた平成8年度（神奈川）の四位。

これらの経過を踏まえ、私は、今年度の強化対策として、国体県予選会を計画しました。4月29日（みどりの日）の第一回秩父市長杯武甲山登山競走です。この結果、少年男子では、松山高校陸上競技部の

長距離選手五名を、成年男子でも、秩父警察署、朝霞自衛隊などの有力な選手十名を強化指定することができました。

少年男子は、5月末から、成年男子の協力を得て、活動を開始しました。毎日の部活動のトレーニングに加え、負荷重量に耐えられる肩を作るための10kgザックランニング（5km）。毎週土・日の事前調査・試走。特に試走では、成年男子の村本裕一さん（樺本チェーン）に、引つ張って頂き、より高いレベルでのトレーニングができました。

また、今年度の関東ブロック大会では、有利な条件が二つありました。一つは、会場の東京都奥多摩摩町が、圏央道の開通で、非常に近くなったこと。延べ10日間の下見も、日帰りで、選手の負担を軽くすることができました。二つ

は、踏査競技の地図が、線上公開となったこと。大野一人での地図作成となりましたが、余計なルートに惑わされることなく、踏査地図を完成することができました。

以上のように、松山高校陸上競技部の走力と、三年間培った踏査地図作りのノウハウが、うまく噛み合い、万全の体制で、関東ブロック大会に臨みました。

しかし、好事魔多し。台風9号の接近による雨、さらには、踏査競技スタート直後に、選手二名が、キイロスズメバチに襲われるというアクシデントまで発生してしまいました。瀧澤勇一郎君は、ふくら

脛つけ根を刺され、足が痺れてしまい、途中まで思う様に走れない状態でした。この様な状況の中で冷静に走手をエッククし、一つしか落とさなかつた小林佑輔君の胆力は、見事なものですね。結果は、予定の倍の六位。予選突破のために、縦走競技で、一位、悪くとも二位に入り、他県の結果を待たなければなりません。蜂に頭を刺された栗原良紀君は、痛みが引かず、病院で点

滴を受けた程で、瀧澤君の足の腫れも引いていません。まさに背水の陣でした。

しかし、台風の通過した青空は、松山高校の上にも光を降り注いでくれました。陸上競技部顧問原島貞弘先生に鍛えられた、彼らの精神力は、肉体の限界というものを超えていました。標高1109mの鋸山山頂で待つ我々の許に、山梨県に次いで、第二位で飛び込んで来たのです。踏査競技三位の千葉県は五位、四位の茨城県は四位、合計8で三県が並んだものの、二位という高い順位の種目のある本県が、関東代表チームとして選出されました。

関東ブロックの突破は例年、本県でも上位に入賞しています。我々もその流れに乗って、八位以内入賞を目指して、頑張りたいと思います。少年女子については、残念ながら、選手が集まらず、棄権でした。しかし、この少年男子の例をより広くアピールし、今年度内から、選手募集、予選会への参加を促して行きたいと思えます。

成年女子は、七位でした。

選手決定が遅れ、思う様に、準備ができませんでした。男子同様、クライミングのできる選手、有力なランナー、オリエンティアからのレンタルなどに講じる必要があります。また別件ではありますが、

体協から、ジュニアの強化行事の実施、指導者の養成の依頼が来ています。例えば、親子登山教室、小中学生のためのクライミングスクールなどです。「企業努力」なくして、発展はあり得ません。お役所に訴える前に、県岳連独自の取り組みを進め、結果を出して行くことが必要です。

中高年の登山、自然保護、安全対策等々、全て「山岳」の中の重要事項です。各々の事業をさらに発展させて頂いて、県岳連の「顔」としての国体を、バックアップして頂ければと存じます。

終りに、様々なご支援を頂いた田中副会長を始め、松下事務局長、その他の皆様にお礼申し上げます。平成9年度関東ブロック大会の報告とさせていただきます。

### 海外登山部

海外登山部は、毎月第二木曜日の「海外登山委員会」を中心に、海外登山の研究及び計画、情報交換等の活動を行っています。

現在、会員22名、全県より海外登山を目指す若者が参集しています。

今年度は、

- ①高所順応研究(6/12)
- ②夏の海外遠征計画発表(7/10)

を終え、秋には、

- ③夏の海外遠征報告会(9/11)
- ④戸高雅史講演会(10月末)
- ⑤海外登山研究会報告会(2/12)

を行います。

特に④は、今をときめく話題のヒマラヤニスト・戸高雅史氏を招いての講演会を予定しています。今年夏、秋のチョモランマ遠征の帰国第一回の報告&講演会となりますので、大変内容の濃い会になると思われます。詳細が決まり次第ご案内申し上げますので、海外に拘らず、山を愛する全て

の仲間のお越しをお待ちしております。

また、一九九八年秋のマカール・I峰(8,463m)の遠征を計画し、平成一〇年度事業、埼玉県山岳連盟主催の遠征隊として、登山許可を取っていました。

現在、実行委員会の発足、隊員の選定、準備作業に入っております。埼玉県山岳連盟初の八千メートル峰登頂目指し、全力尽くして成功に導きたいと頑張っております。

海外登山委員会、戸高雅史講演会、マカール・I遠征隊等に、興味・関心のある方は、お問い合わせ下さい。

海外登山部長 福田 靖

### 自然保護部

自然保護研修会が、6月14日・15日の両日、奥秩父十文字小屋で行われ、満開の石楠花の庭園での研修、自然観察には、浅見会長をはじめ県内各地より21名の参加者で有意義な時間を過ごしました。

#### 第一日目

関越高速を走り、毛木平へ

着いたのが11時を少し回っていた。早い昼食を緑のカラ松林の中で済ませ、みずな沢を渡って集合時間より早く十文字の小屋へ着いた。

早速夕食の準備で手打ちうどんを作る人、屋外のストゥーブに火を入れる人、野菜の具を作る人、大忙しでの時間が過ぎ、出来上がった頃には、予定通り研修会の開催の時刻になった。

浅見会長より、本日の研修、観察会について二日間と云う貴重な時間を大切にして戴きたいと挨拶がありました。

次に担当新井自然保護部長より、私達に一番身近な問題としてトイレの現状について話がありました。

次のような問題であります。全国の70%を占める山岳地帯は、その大部分が森で私達の豊かな生命を支える基本的な環境をつくっています。しかし人々はその自然に憧れ年間一千万人も云われる、アウトドア愛好者で、登山、つり、自然観察、キャンプ等の楽しむ方々にぎわいを見せております。

こうした人々の受け入れに

各地の公共施設トイレも整備されつつあります。(公園、キャンプ場、観光地等)

しかし山岳地帯での公共トイレの整備状況は、近年の入山者数増大に比して圧倒的に不十分です。かと言って山中でトイレが必要になった時は、山小屋に頼るか、昔ながらのキチ打ち、花つみ、かと思えているのが現状です。その結果、飲料水に適さない沢の水場が数多く出現しています。

以上のような問題点が沢山ありますが、身近かて出来ることから実施し、啓蒙運動を心掛けていただきたいと思います。

まず、トイレットペーパーですが、石油系のティッシュペーパーは水に溶けないので水に溶けやすい水洗用トイレットペーパーを使用してください。また、携帯トイレも準備しておりますので、多数の皆様にご協力をお願い申し上げます。

懇親会は6時過ぎから始められ、宿のご馳走に舌鼓しながら、小屋主の山中邦治氏より、奥秩父の四季のスライド

に依る自然鑑賞を行い、夜遅くまで昔話に花が咲いた。

#### 第二日目

朝まだ薄暗いうちに目を覚まし外に出てみると、昨日とはまた変わった、一段と美しい石楠花、ツバメオモト、イワカガミ、ホテイランを見ることが出来た。早起きは三文の？である。

今日の行程は三国尾根を峠までの自然観察路である。

早々に朝食をすませ十文字小屋を後に、奥秩父で残された数少ない原生林の中を十文字山二、〇七一米を目指す、山頂付近の石楠花は、最高の見頃で、ふわふわの林道の分岐点まで続く、弁慶岩、梓白岩と続き、悪石一、八四九米を過ぎれば三国峠である。天候にも恵まれ奥秩父の動植物にふれ充実した研修、自然観察は無事終了しました。

参加して戴いた皆様にお礼を申し上げると共に、未来に向けて自然保護活動にお一層努力する所存であります。多数の皆様のご理解と御協力をお願い致します。

ありがとうございました。

自然保護部長 新井宏司



研修会の参加者

### 事務局として

事務局長に就任して早くも一年が過ぎようとしています。が、未だに前任の方の助言や、理事の皆様のアドバイスを受けてやっていると現状です。今までは県岳連を外から見えていましたが、実際内側に入ると事務処理を行なうとなるといろいろ大変な事が起こってきます。

まず第一に県岳連の財政運営面での事です。地区岳連の皆様より負担していただいているお金をいかに有効に使うか？

第二に七年後に迫った埼玉国体です。加須市・秩父市・小鹿野町の二市一町と埼玉県の三者が一体となって共通の目的に目標を置いてそれぞれの役割を認識して実行すること。

第三に海外登山に関するところで、隊員の皆さんが無事に帰国するまでの長期間、県岳連としての様に情報を仕入

れるのか？

これ等大きな問題は常任理事会、理事会で毎月話し合われ、各部・各委員会の意見を繁栄出来る様、会長はじめ理事長、その他の役員の方々と熱心に討議され、その都度解決に向けて努力されて何とか今日に到っています。継続的な問題については未だ解決の目途が立っておりません。更に二年後には関東ブロック大会の開催地となっていることとです。これも先の三つの問題にプラスされて、関係各機関への連絡も頻繁になると思われます。

これからはますます事務局の仕事も多忙となることと思えますが、埼玉岳連の発展に僅かでも力になればと微力を尽くす所存です。

岳連報の発行にあたって事務局長として日頃思っていることを述べさせていただきます。

事務局長 松下高光

### 第一回秩父市長杯

#### 武甲山登山競走大会

平成9年4月29日

◆土津園駐車場スタート  
◆長者尾根  
◆武甲山御嶽神社下  
◆広場ゴール

◆距離 離れ 5.5 km  
◆標高差 860 m

- ◆一般男子
  - 1位 中静 信 朝霞自衛隊 57分26秒
  - 2位 近藤 篤 秩父警察署 1時間00分02秒
  - 3位 増本俊昭 朝霞自衛隊 1時間00分50秒
- ◆一般女子
  - 1位 西沢悦子 フリー 1時間34分42秒
  - 2位 須藤フミ子 戸田山の会 1時間37分20秒
  - 3位 茂木 エコー山の会 1時間38分12秒
- ◆少年男子
  - 1位 吉田正憲 松山高校 57分23秒
  - 2位 小林裕輔 松山高校 58分49秒
  - 3位 斎藤健一 松山高校 1時間00分51秒
- ◆少年女子
  - 1位 長谷川 (中学生) 1時間49分13秒

### 日山協・自然保護常任委員会

自然保護部では、5月31日、6月1日、二日間に渡り定例の委員会を小鹿野町・小鹿荘で開催しました。

当日31日、西秩父駅へ14時に集合して、浅見会長の案内で武甲山資料館を見学し、武甲山の歴史、貴重な武甲山の動植物(サル、クマ、イノシシ、アカゲラ、ウグイス、ゴジュウガラ、チチブイワザクラ、ブコウマメザクラ、ブコウスカシユリ等)について講義を受け、秩父札所三十一番観音院の裏山で自然観察会を実施した。

宿泊地小鹿荘へ着いてからの委員会では、今後の取り組みとトイレの問題に意見が集中した。

18時より日本山岳協会の自然保護常任委員の方々と懇親会が行われ、話題も多く時間の過ぎるのを忘れる程の盛上があった一時であった。翌日は朝から天候も良く、

三峰神社から、奥秩父山開きに、日山協常任委員、埼玉岳連合同で式典に参加しました。ミツバツツヂの咲く、秩父宮様のレリーフの前で一般登山者を含め約三百人の参加があり、古式豊かに式典が行われ、雲取山荘・新井信太郎氏、十文字小屋・山中邦治氏に、それぞれ、浅見会長より感謝状が手渡されました。

式典終了後はお清平より、太陽寺まで奥秩父の植物について勉強しながら下山、充実した二日間を過ごさせて戴きました。

### 第一回秩父市長杯 武甲山登山競走大会

平成9年4月29日

平田 マサ子

初めての県山岳連盟主催、秩父市長杯武甲山登山競走大会についての県岳連の緊急理

事会が開かれたのが3月25日、その席上で市長杯が出るのであれば、一般男女も加えてほしいとの意見が出され急遽一般男女も参加することに話が進み、次の理事会の4月2日に承認された。決まれば早い山男の行動、皆自分に何が出るか、アツという間に決まる。その見事さ、平田さんは、当日受付係を二、三人連れて来て、27日は武甲山の競走路点検、土津園に八時半、当日は七時半集合」といわれビックリ。下見点検は自分で行くとして、受付は若い人にお願しようとも思いましたが、若い人には参加の方に廻って欲しいとも思いました。丁度折よくエコー山の会の総会が4月6日にあり、総会後例会が行われ、桜井会長より出席されていた方に話を通して頂きました。例会終了後二人の申込みがあり、その後五名ほど増え、結局のところ総勢七名の出場者が決まり、県岳連最大の会員を擁する、エコー山の会の面目も立ちまし

た。これからも県主催の講習会、講演会、競技会等ありましたら、リーダーの皆さんの手助けや、グレイドアップの為に、また中高年登山者の事故対策の為に是非参加して欲しいと思います。県連の総会及びその後行われる講演会等、所沢市山岳連盟に加入しているエコー山の会会員であれば誰でも参加出来ます。今後早目にエコー通信を通して掲載をお願いするつもりです。所沢市では市役所山岳部とエコー山の会が所沢市岳連として県に登録されている事です。この競技会があったことで県の事務局とも色々とお話をする機会がもてました。そしていろんな勉強をさせて頂きました。此の大会では三人の入賞者も出すことが出来ました。最初は参加することに意義がある等と思っておりましたが、出場者の頑張りで余裕をもって、時間内完走、好結果を出すことが出来ました。出場者の皆さん本当にご苦労様でした。これもエコー山の

会の皆様のご協力の賜物と思えます。これからもご協力の程お願い致します。(エコー山の会)

### あとがき

少年男子がミニ国体で予選通過し、初の大坂国体へ出場決定。'98秋には、県岳連主催のヒマラヤ・マカルーI峰(8033m)の計画が福田隊長のもと進められています。そして平成16年には二巡目の埼玉国体と、地区岳連皆様方の協力なくして成功は有り得ないと思います。今後とも暖かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。久しぶりの岳連報です。今後は定期的に発行を予定しております。どんな記事でも結構です。広報部まで原稿をお寄せ下さい。お待ちしております。(大久保)